

第6回 羽島市新庁舎建設委員会 会議要旨

日時	平成30年9月3日（月）午後1時30分から3時
場所	羽島市役所 本庁舎4階 委員会室
出席者	<p>〔検討委員〕 大野委員長、犬飼副委員長、木下委員、高木委員、味岡委員、今井田委員、浅野委員、柳町委員、川合委員、安藤委員、浅野委員、岩田委員</p> <p>〔市関係者〕 事務局：橋本総務部長、入山新庁舎建設推進課長、黒田同課専門官、山田同課係長</p> <p>株式会社佐藤総合計画中部事務所ほか：6名 株式会社イトーキ中部支社：1名</p> <p>〔傍聴者〕 傍聴者9名（報道機関を含む）</p>
内容	<p><u>1 開会・あいさつ</u></p> <p>委員12名のうち、12名が出席。</p> <p>事務局より開会の挨拶。</p> <p>議事進行を委員長にお願いする。</p> <p><u>2 議題（1）基本設計（案）について</u></p> <p>事務局：</p> <p>基本設計（案）について、資料を使用して説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本設計の概要について <ul style="list-style-type: none"> ・基本設計（案）説明書目次について 資料1に基づき12項目を基本設計で決めていきたい旨を説明。 ・オフィス環境整備支援業務に基づく報告書について 窓口利用者動線調査、部門間近接度調査、各課特有諸室調査、文書量・物品量調査、窓口必要数調査、会議・相談頻度調査、などを行い新庁舎に必要となるスペース計画の基礎資料を作成し、延床面積約10,000㎡の妥当性について確認した旨を説明。 ・建物形状（比較検討プラン）について <ul style="list-style-type: none"> ・現敷地内での新庁舎配置（案）の比較検討について 資料2、3に基づき比較検討項目を説明。 ・新庁舎のレイアウト（案）の比較検討について 現時点のレイアウト（案）の考え方などを説明。

- ・フロア構成の検証について
 - ・新庁舎のフロア構成（案）の比較検討について資料4に基づき比較検討項目を説明。
- ・環境設備計画の概要確認
 - ・新庁舎の環境設備計画（案）について資料5に基づき検討項目を説明。

委員長：

事務局の議題説明に対して、ご意見があればご発言を求めます。

委員：

報告書は現状調査ということですが、例えば子供関係の法律も変わってきており、今後は業務量が増えてくると思います。現状だけではなく、これからの市でやるべきことを踏まえて調査をされていますか。具体的には、雇用対策、生活困窮対策や生活保護対策などに対し、ハローワーク的な機能を持つなど将来的なスペースの確保について、現場からあがってきているかが知りたいです。

事務局：

将来的な部分は、分かり得る範囲で把握しているのが現状ですが、今後の機構改革や執務空間のレイアウト変更などへ柔軟に対応できるようなフロア構成や執務空間を整備すべきと考えています。想定される範囲内の変更には対応可能な状況ということでご理解いただければと思います。なお、各課長によるワーキングチームを通じて、繰り返しレイアウトの確認をしてもらい、再考、検討させていただきます。

委員：

レイアウトを見ると吹抜けが多く、市民感情からすると吹抜けは無駄で、別のスペースに活用するとか階数を減らすなど、デザイン重視より利便性重視にしないといけないと思います。

事務局：

お示ししているのは、現時点の（案）ですので、例えば市民意見交換会やパブリックコメントの中で、吹抜けはそんなに必要ないなどのご意見があれば、吹抜けの解消なども含め、レイアウトを再考、検討させていただきます。

委員：

各課の関係性のなかで、子育て・健幸課と教育委員会の近接優先度があまり高くない結果のようですが、今後はもっと高くなっていきます。ですので、現状の調査結果だけではなく、今後、福祉、子育て、教育はもっと密接になっていきますから、そういったことを踏まえて検討されますか。

事務局：

今後の情勢によって、近接度、密接度が変わってくるのは想定していますので、市民の皆様の需要、ニーズを踏まえ、できるだけ1、2階に市民の皆様に関係性の高い課を効率的に配置したいという考えです。

委員長：

これは潜在的なニーズを調べたのですか。

事務局：

現状として、職員への部門間近接度調査を行いました。

委員：

利用者の満足度は、どのような現状ですか。

事務局：

5月下旬の5日間、来庁された市民の皆様にも調査にご協力いただき、来庁時間や来課状況を調査し、意見聴取も行いました。やはり、目的の課は近くに集まっていて、用事を早く済ませたい、という意見が多かったです。今の分散庁舎ですと、あっちに行ったり、こっちに行ったり、といった状態は面倒だから、1つの建物で用事が済むのなら、そのほうが良いといった意見が大半でした。

委員：

そうだと思います。気になったのは、1つの課しか行かない方は、そこでスピーディーに対応できるのであれば、市民の方はさほど不便に考えていないのかもしれませんが。

委員：

私は、急ぎではない市役所の用事を何個か溜まってから来庁する場合がありますが、ATMに寄って、戸籍謄本を取り、祖母の福祉の関係に来課する場合がありますが、やはりあちこち行くのは面倒なので、複数の課へ行く方の人数は少ないかもしれませんが、1つの建物で用事を済ませられるのは良いと思います。

委員長：

1つの課だけが目的の方はどこにあっても良いかもしれませんが、複数の課に行く方は、どこに来ているかを調べて、できるだけ近くで用事が済むのなら、便利が良いと思います。特に、引っ越してきた方や引っ越される方なども、そのほうが良いと思います。

委員：

例えば、福祉課と学校教育課へ用事がある場合、今は教育センターが別の場所にあるので、必然的に1箇所となっている場合もあるのではないかなと思います。一緒にあれば一緒に行くことができると思います。

委員長：

市民のニーズはこれからですか。

事務局：

今後、基本設計（案）を提示し、基本構想・基本計画の時も行ったように、市民意見交換会やパブリックコメントでご意見を頂戴する予定です。

委員：

私は、機能性のある市役所であれば良いと思っていますので、市民サービスの観点からということをきちんと名言していただければ、説得力が増すかな、というのが本音です。

委員：

ポジティブな意見を言えば、この結果と出来上がった後の結果を見て、2課3課といった方が増えれば、新庁舎で近いところに配置したという効果が出た、ということになります。

事務局：

結果的に、市役所に来たらまとめて一度に用事を済ませられる、といった機能性、効率性が大事になってくると思いますので、そのような考えで実施していきたいと思っています。

委員：

現状の把握も重要ですが、この先どうするというビジョンが明確でない。羽島市独自のビジョンがあって、現状と併せて、必要なスペースを確保した、と言うと説得力がありますが、そこが少し薄かった。あと、ヒアリングするのは、市のサービスと同時に、点在する市の外郭団体を一緒にやらないといけない。また、スペースだけではなくて、いかにレスポンスを早く処理するかの対応時間の問題も併せて考えていってほしいです。

事務局：

はい、分かりました。

委員：

台形と長方形の比較検討でいくつか疑問があります。柱・杭の本数は、全然違いますが、なぜこんなに違うのですか。

事務局：

台形B案は、14mスパンの正三角形グリッドを組み合わせ、建築面積を約2,450 m²、延床面積を約10,000 m²と想定し、杭の本数を18本と算定しました。長方形A案の7.2m×15mスパンは、現敷地内の南側駐車場に長方形が計画できる最大の建築面積を約2,000 m²と見込み、杭の本数を30本と算定しました。

委員：

14mのスパンがとれば、長方形の柱をもう少し減らせるのではないですか。

榑佐藤総合計画：

構造架構の図を見てもらうと、フレームで囲われた面積が、建築構造として賄える部分になります。長方形の柱を1本減らすと、囲われた面積がかなり大きくなります。そうすると、構造的な負担がかなり増えてきます。今、正三角形のトラスで提案させていただいたのは、柱1本あたりの荷重が効率的に支えられるので、柱を極力減らすことができる、という提案をさせていただきました。

委員：

それは構造設計でどうにでもなるのではないですか。

榑佐藤総合計画：

経済スパンを想定しています。A案の7.2m×15mスパンですと1つの四角形の面積が108 m²になりますが、B案の14mスパンですと1つの三角形の面積が約85 m²になります。A案は長方形のグリッドが18個、B案は三角形のグリッドが21個になります。これで、同等の面積が賄えます。1つのユニットが長方形だと4本の柱が必要ですが、三角形だと3本の柱で賄える、という合理的な構造スパンになります。

委員：

この資料だけでなく、予算の概算の内容まで見せてもらわないと、どちらが安いという比較があまりできないので、もう少し説得力のある内容があればと思います。

事務局：

市民の方々にとっては、一番キーになる場所ですので、今後こちらで精査したものをお示しできたらと考えています。

委員長：

最初に長方形か台形かを定める、または、両方を平行に計画して、最終的にコストパフォーマンスが良いほうに定める、どちらになりますか。

事務局：

すぐ1つに決定という訳にもいきませんし、市民の皆様にも説明しなければいけませんので、基本的に双方で検討していくことを考えています。

委員：

質問が3点あります。まず1点目は、文書管理の件で、現在職員の方がデスクの上に置いている文書を今後はどうしますか。2点目は、駐車場と敷地のバランスから、建物形状は台形でいいのかなと思います。3点目は、ロビー、オープンスペースなど市民が行って良かったなと思える環境の良い建物にしていきたいと思っています。そのためにも、A案かB案かどちらがいかの意思表示を示すのは、そろそろではないかなと思いますがいかがでしょうか。

事務局：

まず1点目、文書に関しては、新庁舎では退庁時には机の上に何も残らない状態にするのが理想で、そのような方向でファイリングシステムを進めるつもりです。2点目は、市民の方々の車と公用車は現敷地内で確実に確保するという方針です。来庁者の駐車場は、優先度が一番高く、利用しやすい駐車場を目指しています。3点目は、A案かB案か検討するのに、今のところどちらも甲乙付け難いということでご理解いただければと思います。ただ、11月末には、最終的な結論を出さなくてはならないと考えています。

委員長：

コストパフォーマンスのコストですが、必ずしも安いほうが良いという訳ではないと思います。台形のほうが高くなるかもしれないけど、こんなに使いやすい、駐車場スペースも確保しやすい、動線も確保しやすい、となったら台形のほうが良い、となると思います。ですから、単純に安いから良いという発想は少し違うかなと思います。

事務局：

はい。

委員：

それぞれのフロア構成案のメリット、デメリットがありますが、市民協働スペースだけ個別に記載があり、おかしくないかなと思います。

事務局：

レイアウトは、今後変更していく可能性がありますので、この市民協働スペースについても今後検討していきます。

委員：

防災対策は、情報・防災庁舎がありますが、備蓄品スペースなどを確保されていますか。

事務局：

新庁舎に関しては一部ですけど、備蓄倉庫も念頭においてレイアウトを検討しています。

委員：

天井高はどれくらいになりますか。

事務局：

極端に高くはないですが、現本庁舎の天井の高さよりは高くなる予定です。現本庁舎より、もう少し空間的に余裕が出るものとしたいです。

委員：

フロア構成比較表のそれぞれの案のメリット、デメリットを簡単に説明して下さい。

事務局：

1案は、1階から3階まで吹抜けになっていて、議場の多目的利用を想定したものです。そうなりますと、3階には会議室がとれず、全フロアで倉庫が不足するという難点があります。

2案は、1案同様に、1階から3階まで吹抜けにしますと、議会関連が2フロアにまたがり、議会の独立性に多少無理が生じるところが難点です。

3案は、将来的に災害対策機能の更新移設が可能なレイアウトになっていまして、吹抜けは1階から2階までで、全てのフロアで会議室と倉庫を確保できます。

4案は、現時点では、台形でも長方形でも、ベストなフロア構成になっていまして、教育施設も含めて1、2階にライフイベントの高い機能を全部集約していますし、1階を除く各階に会議室を配置しています。

今のところは、4案で考えています。

ただし、保健センターに関しては、先ほど委員からのご指摘もあったように、業務量が増加する場合の対応を含め、新庁舎に入るのか否か、新庁舎と保健センターとの連携を含め、現実的に検討していきたいです。

委員：

災害に強い庁舎ということで、どこまで災害に対応できるのかということで、1階にどのような課を置いたほうが良いか、どのような考えで盛り込まれていますか。

事務局：

長良川が決壊した時のこの辺りのハザードマップの予想浸水は、1 m程となっています。現状で1 m程地盤が高い現敷地内の南側駐車場に新庁舎を建て、免震装置を設置し、揺れに強い庁舎を想定しています。基本的には、1階に市民課や税務課などの窓口を置く予定ですが、もし浸水したら大丈夫かという懸念を今後検討していかなければいけません。情報の本体となるサーバーは情報・防災庁舎の2階に設置していますので、サーバーが浸水するという事は、想定していません。

委員長：

A案とB案をいつの段階で絞りますか。

事務局：

次回の第7回の新庁舎建設委員会でご提示させていただけたらと考えています。

2 議題 (2) その他

事務局：

市民ワークショップ開催（結果・予定）、市民意見交換会の開催予定、パブリックコメントの実施予定について、説明を行う。

事務局：

今後の当委員会の開催予定ですが、次回を10月中旬を目処に、次々回を11月下旬を目処に考えています。

委員長：

それでは、これもちまして本日の委員会は滞りなく終了したと思います。

3 閉会

以上